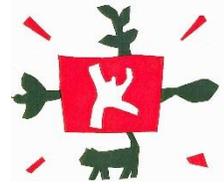




共同通信



2018年4月27日 260号(469号)

日本基督教団 西宮公会教会月報 〒662-0834 西宮市南昭和町 10-22

TEL 0798-67-4691 FAX 0798-63-4044、Email koudou@gamma.ocn.ne.jp

<http://koudou.jp/> 振替 01170-3-4901

To tell the story 158

「聖書：出エジプト記 19 章 1-9 節」

「あなたがたは、私に対して祭司の国となり、また聖なる民となるであろう」。これがあなたのイスラエルの人々に語るべき言葉である (19・6)。

出エジプト記に記されたイスラエルの民の脱出の物語は、みなさまはよくご存じのことと思いますが、19 章にいたるまでの粗筋を簡単に見ておきましょう。この民は「ヘブル」とも言われています。ヘブルは、奴隷労働をさせられていた社会層を意味するようです。このヘブル人とも呼ばれるイスラエルの人々は、エジプトの地においてファラオ (パロ) の命令によって、都市の建設、堤防建設などの土木工事などに従事していました。炎天下で強制的に重労働をさせられていたのです。この奴隷として抑圧されていた人々に対して、ヤーウエの神は、彼らを解放するためにモーセとアロンを指導者として選びます。モーセは、イスラエルの民を一時去らせてくれるようにとパロ

と交渉を始めます。もちろんこれは一種の政治的な交渉ですから、ヤーウエの神を荒野で礼拝するために少し休暇を下さいと言うだけです。パロはこれに応じません。それではと、モーセはエジプトの地に様々な災いを下して、パロに迫ります。モーセがナイル川を杖で打つとカエルの大群が出てきたり、魚が死んで川が臭くなるといった具合です。しかし、パロはますます頑固になってモーセの要求を拒否します。これが有名なエジプトに下る 10 の災いの出来事です。最後の 10 番目の災い、つまり過越しの夜に、エジプトの初子がみんな死ぬというドサクサに紛れて、イスラエルの民は、逃げ出します。奴隷たちの逃走に気付いたパロは、これはまずいと、戦車隊を繰り出して追跡します。脱出した民は、葦の海の近くにまで来ますが、後ろからは戦車隊が迫ってきます。前は海、後は敵という危機一髪の場面で、モーセが例の杖を挙げる

と海の水が退くという奇蹟が起こり、民は海の中を徒歩で渡ります。これは映画の十戒などでおなじみの場面、後から海に入ったパロの戦車隊は逆流して来た海の水に巻かれて死んでしまいます。この「葦の海の奇蹟」が記されているのは、出エジプト記の14章です。

難を逃れた民は、荒野を通過してシナイ山に向かいます。今日のテキストの19章はこの場面ということになります。20章ではシナイ山でモーセを通して「十戒」を受けます。イスラエルの民は、パロの圧制、抑圧から解放されました。この民はこれからどうなるのでしょうか。彼らが直ちに「自由」を獲得したとは聖書は語っていません。

第一に、モーセが導き出した場所は、荒野でした。そこにはまともな食べ物も飲み物もありません。飢えと渇きに苦しんだ民は、モーセに対して文句を言い始めます。エジプトには、自由がありませんでしたが、食いものはあった。そのことで民は「つぶやく」のです。

次に民は解放の指導者であるモーセとアロンを信頼していませんでした。モーセの行なう奇蹟を見て一度は信じた民は、苦しい時がやってくると信じません。ここから聖書は長い荒野での民のつぶやきの物語を語ります。このことについてはここでは問題にしません。

今日のテーマは、圧制から解放された民が、いったいどこに向かうかという問題です。地理的な問題としては、もちろんパレスチナへと向かうのです。そこに

は先住民がいました。彼らと戦闘を交えることになるのかとか、途中で通過する国の住民とは平和にやっけてゆけるのかという問題があります。このことにも今日は触れません。「民がどこに向かうのか」というテーマは、比喩的にはこれからどのような「国づくり」をするのかということです。出エジプトの物語は、このような政治的なストーリーとしても読めるのです。実際にこの物語は、近代の西欧の市民革命の時代に政治的ストーリー、社会革命のモデルとして読まれてきました。

聖書はこの解放された民がどこに向かうのかという問に対して、地理的な場所を示すのではなく、「乳と蜜の流れる地」へと向かうと語ります。このことばは、みなさんもよく耳にしたはずです。これとは別のもう一つの答えが「祭司の国、聖なる民」です。これからどのような国を作るのかという課題に対する最初の答え「乳と蜜の流れる地」についてまず考えてみましょう。これは言い換えると、経済的な豊かさを求める政治理念と言えます。この理念は、エジプトの地で長く抑圧されてきた奴隷根性が生み出すビジョンであると批判的に捉える者もいます。私たちは、自民党の唱えている「美しい国日本」とか、最近話題になりました「瑞穂の国小学校」のようなものを連想するかも知れません。荒野にいたイスラエルの民が向かっていたパレスチナは、エジプトのような大麦や小麦が大量に収穫できるような国ではありませんでしたが、

牧畜や果樹栽培には適した土地でしたから、たしかに「乳と蜜の流れる地」でした。聖書は、このようなビジョンが誤っているとして、否定することはありません。経済的な豊かさは、神様から受ける祝福に違いないからです。しかし、これだけが答えではないのです。それが「祭司の国、聖なる民」という理念であって、神様の「宝」であるべき民にこれを必ず知らせなければならないと、神はモーセに告げます。

「祭司」というのは、神様に仕えることを職業としている人です。神に祈る人、神と人々とを仲介する人です。祭司の国とは、祭司、つまり宗教家が尊敬される国という意味でしょうか。「官僚国家」とか「警察国家」といえば、官僚あるいは警察が威張っている国のことを言うからです。しかしここでは、宗教改革者のマルティン・ルターが唱えた「万人祭司」を思い浮かべるべきでしょう。ルターは、信徒ひとりひとりが聖書を読み、自ら学び、神に祈るべきであると主張しました。お祈りの専門家がいないのではない。だれでも直接神様に向き合って祈ってよいのです。たしかに教会には牧師がいます。私のような聖書学者もいるわけです。しかし牧師さまにお祈りはまかせておけば良い、とか聖書解釈は専門家に任せておけば充分で信者は読まなくて良い、ということにはならないのです。牧師や聖書学者は、教会のリーダーであったとしても、信仰者としては全員が神の前では平等であるとするのが、プロテスタントの

考え方です。聖書の語る「祭司の国」というのは、民のすべてが祭司である国という意味であると解釈してよいでしょう。これを政治理念として言い換えれば、民主主義の国ということになります。

「聖なる民」とは、どのような意味でしょうか。聖書のいう「聖」は、日本人が普通に考えるような清らかさとは関係がありません。うんと昔ですが、学生時代に聖書の講義を担当されていた宣教師のロイド先生は、「聖」を意味するヘブライ語のカドーシュを説明されるときに、いつも「カドーシュは、清いとは全然関係ありません」と教えられました。「聖」は、他と区別されるという意味です。そのような意味では、「俗」とか「日常的」とは異なるという意味だと言ってよいでしょう。私たちは、日曜日を「聖日」と呼び、仕事を休み、神を礼拝する日として他の日と区別しています。この教会が標榜しているように、地域の人々と共に歩む、ことに社会的に弱い立場に置かれている人々を支援するというようなことも「聖なる民」の意味には含まれるでしょう。「川の掃除をする」というようなことも、他者から見れば、ちょっと違っていることをする教会です。しかし、ここで私は「聖なる民」の意味について、「偶像礼拝をしない民」の意味に理解したいと思います。偶像礼拝というのには、出エジプトの物語が語っているように木や石や金属で作られた神様を拝まないという意味もたしかにあります。しかし、現代人にとって最大の偶像が何かといえ、

「お金」です。お金の事を一番にする生き方こそが偶像礼拝です。実際に現代において多数の人々は、拝金主義、マンモニズムに陥っています。先に言いましたように「乳と蜜の流れる地」という理念をまったく否定する必要はありません。しかし、社会全体が拝金主義に陥ることを、神様はお嫌いになるのです。ですから神はモーセを通して「祭司の国、聖なる民となれ」と教えられたのです。イエスもまた山上の説教において「神と富に兼ね仕えることはできない」(マタイによる福音書 6 章 24 節) と語られました。

2018 年 4 月 8 日礼拝説教より
(勝村 弘也)



日本基督教団西宮公会教会集会案内

早天祈祷会	毎月 1 日 午前 6 時 30 分から	於：西宮公会教会集会室
教会学校	毎週日曜日 午前 9 時から	於：西宮公会教会礼拝堂
聖日礼拝	毎週日曜日 午前 10 時 45 分から	於：西宮公会教会集会室
聖書研究祈祷会	毎週第 1・3 水曜日 午後 7 時から	於：西宮公会教会集会室
読書会	毎週第 2・4 水曜日 午後 7 時から	於：西宮公会教会集会室

(早天祈祷会、聖書研究祈祷会、読書会は、2016 年 4 月よりしばらくお休みしています。)

～どろんこと太陽～ 2018

西宮公同幼稚園の子どもたち

春のかぜが～ ふいてきたら～♪

まばゆいばかりの満開だった園庭の桜が散り、その木々たちには次々に青々とした葉で輝いています。その桜の花が咲く前、歌が素敵でそして何でも知っているかっこいい年長さんが公同幼稚園を巣立ち、そして4月6日の始園式の日、さんぼらったさんだったみんなは、年長さんに。ぼっぼさんだったみんなは、さんぼらったさんになり新しい一歩を。新しい帽子を、各ご家庭で素敵に味付けされ嬉しそうなみんなの姿。〇〇さんごきげんいかがかな～♪ 各クラスのお友達はこの歌声で、なんだかまだ慣れない様子ですが、嬉しさが顔一面に笑みが自然とあふれるみんな。年長さんになったお友だちは、始園式の次の日に、一人一人、1枚の布に年長さんになった喜びを世界の一つしかない「こいのぼり」に仕上がるのを楽しみに色を付けました。みんなの作業を眺めていると少しお手伝いをした私も、みんな大きくなったな～と感じるひとときを過ごさせていただきました。

そんな活気溢れる公同幼稚園に新しくぼっぼさんの子どもたちが仲間入り！もっともっと賑やかになった毎日がスタートしました♪

自分の椅子に座るよ～。おやつを食べるときは手をお皿にしてね～。一つ一つのすべてが初めてのぼっぼさん。そんなぼっぼさんと過ごしていると、さんぼら

ったになったついこの前までぼっぼさんだった子どもたちがとっても大きくお姉さんお兄さんに見えて。こんなに毎日色んなことを自分で！と、過ごせるようになるのは凄いことなんだな、と感じる毎日です。

52人のぼっぼさんと、どこへ散歩にこう～、どんなことが出来るようになるかな～、まだ数日ですがぼっぼさんと過ごしている毎日はワクワクでいっぱいです♪

歩くのが苦手だったのに！食べるのがゆっくりだったのに！涙でいっぱいの朝の始まりだったのに！そんな子どもたちがゆっくり少しずつ過ごしていくうちにできることが増えていくのだろうな～、大きいクラスの子どもたちを見ていると子どもたちは必ず育つ、自信をもたせてもらえます。また新たに始まった1年、毎日いろいろなものに出会い発見し、季節を体いっぱい感じて1日1日大切に子どもたちと過ごしていきたいと思っています。笑顔いっぱいの毎日をすごせますように…。

(西谷 日向子)



あんなこと こんなこと

2018年3月16日(金)

西宮公同幼稚園 卒園式

37人の子どもたちが、巣立っていきました。



2018年4月11日(水)

西宮公同幼稚園 入園式

桜の木は緑色になっていましたが、元気な子どもたちが仲間入り。幼稚園の子どもたちの帽子の色が全色勢ぞろいしました。いよいよ2018年度のスタートです。



2018年3月26日(月)

教会学校

春の六甲山に登ろう!

小学生41名、大人9名で、菊水山→再度山→市ヶ原→新神戸までを、春の六甲を楽しみながら、元気に登ってきました。



2018年4月2日(月)～3日(火)

教会学校

淡路島平安荘ワークキャンプ

小学生4名、大人8名。山々の一面に、ピンク色に浮かぶ山桜。一番きれいな時期に見ることが出来ました。晩御飯には、淡路の海で採れたわかめ、淡路産の玉ねぎ、田んぼの畔で採れた野蒜や、ちりめんじゃこなど、たくさんいただきました。



2018年4月7日(土)

こいのぼり制作

年長さん、一人一人が自分で色を選び、楽しみながら色付けたこいのぼり。17日より、津門川に元気よく泳ぎ始めました。



2018年4月14日(土)

春咲縁日

芦屋市木口記念会館

ミニコンサートあり、美味しいものあり、様々な手作りの品があつて、たくさんの人たちが訪れました。関西盲人ホームの人たちのワンコインマッサージの気持ちのいいこと♪



～あるがままに～

「順子先生の出会い日記」

2月3月、大学の出講がなく、8月9月の時と同様に穏やかな毎日を。もちろん子どもたちとの日々は忙しく、いろいろ慌ただしく過ぎていきますがどうもこのお付き合いする相手の年齢差は大きい。

さて始まりました、2018年度。月曜と火曜の午後は車で勤務校に。これまでも学生相手の時間は大変だと言わんばかりのここでの報告、共感してもらったりビックリ！の反応も。しかし、です。先日の最初の時間はしゃべりにしゃべった、久しぶりにしゃべるので面白かった。またみんなが聞いてくれるのでついつい楽しくしゃべってしまった、という始まり。

受講する科目にはそれなりのテキストがあります。〇〇書房とか▽▽社とかまあいろいろなところが「保育内容総論」とか「保育者論」などのテキストを作っています。保育の関係では領域（学校だと教科）と言うのがあり「健康」だ「環境」だなどとこれも1冊ずつテキストが。これ、いやですね。そんなテキストで学べるものでないのが人間のこと、子どものことです。「人間関係」をテキストで学べるか！なのです。わたしはもっぱら信頼できる雑誌のコピー、新聞記事の切り抜き、テレビなどからの映像とその時その時で、世の中の様子（たとえば法律などが変更する）や情報で、講義の準備をしていきます。菅澤さんはいいのよ、毎日、話のタネは尽きないし、でも普通は

そんなに時間（90分）がもたないからテキストを順に読ませたりするのよ。エーッそれって何よ！なのですが、そんな世界ようです。

テキストなんて、なのですが、今年うれしい話がありました。現場の話が大切、そんなふうに思っている仲間が「保育者論」の授業に、わたしの「子どもへのまなざし12ヶ月」を取り上げてくれました。100人を越える人数。そしてわたしの及びもつかない形での授業を展開してくれていっているとの報告に嬉しくなっています。1年間を講義の回数にざっと15回に分けてスタート、初回の感想は「新学期前の様子がわかる」「保護者への心遣いがわかる」など読みのあと具体的な感想が出てやりやすい、とめっちゃ褒めの言葉が。いやいや褒めるのはこちらだわ、と思いつつ、5年目の春を迎えたわが実践集。生きている、活かされていると喜んでいきます。そうそうもう一つ、学生さんの応答に「園のおたよりというより小説を読んでいるみたい」というのがあったと。顔がほころんでいます。

さてそのわがおしゃべりに、今年はまだ突っ込まれていませんが「早口」に対してのご意見が時として。学生からの評価表も出るのが大学ですので要注意。毎年一つ二つはあるもののこちらもめげてはいません。大体、原稿が配られるプロジェクターでの講義に慣れ、板書なんて写すのいやだで、それをスマホで写す輩も、また板書のしかたが悪いなどの傲

慢な 20 歳前後を相手に、しゃべっても許されているのですから幸せなこと。

配布したレジュメにしっかりと聞き取り書き込んでいる学生もいて化石に近くてもこのわたし、勇気を持って、です。

第一講での感想をいくつか。

- ・先生を必要としているのは障害のある子だけではない、全員に目を向ける必要性。どんな子どもも先生にかまってほしい、名前を呼んでほしい。
- ・障害児保育の授業は障害を抱える子どもに対する授業だと思っていたけれどすべての子にあてはまると気づけた講義だった
- ・現場に現在関わっている先生から現場のリアルな声が聴けて勉強になった
- ・いろんな子どもがいる。一人ひとりのいろいろなことに気づくことが大切
- ・今日の話は教科書みたいな「こうでないダメ」じゃなくて体験談やリアルな保育の世界が聴けてためになると実感した

ね、勇気が出るでしょ！とはいえシラバスにあまり従わず今を大切にしていると次は何を、どんなものを用意して、ミニレポートのチェックなどなどを考え準備する日々、メモ書きばかり増えての闘いが続きそうです。

追伸

ここしばらく毎朝 6 時から、「グレートトラバース、プロアドベンチャーレーサー 一田中陽希の冒険、足だけでの日本百名山一筆書き」というのが放映されています。2014 年の挑戦で、スタートは屋久島の宮之浦岳から始まって最後は北海道の利尻島、利尻岳まで 7800 キロ、交通機関は一切使わずに足での踏破。海もカヌーなどで渡っていくのです。

山は〇座と数えるようで南アルプスを越え、北アルプスも順調に進み、先日 80 座に。行ったような気分になる景色に見とれるのはもとより、前へ進んでいく知恵とそのことへの熱い思いに心から感動のひと時を過ごしています。そして自然というものの存在、その前に人は無力であること、すべて生きることは予測できない、黙々と歩を進める姿からそんなことも伝わってきます。さて、登山なんて、の私ですが、懐かしい！の歩いた道が。中央アルプスの空木岳や宝剣岳、千畳敷カールで有名なところ、1978 年の夏でした。尾根をひたすら歩きました。雨の中の下山でした。もう 40 年近く前のこと、それ一回きりの山体験、これで私たち夫婦の人生は大きく変わり、わたしは 2 度と山などには。相手は、こいつはパートナーとしては力不足ということで山仲間を他に求めてのその後となったのです。でもテレビはいいな、楽しんでいます。

教会の火曜日 10 時から 12 時 於：西宮公会堂集会室

第 1 火曜日、第 3 火曜日

～♪ぼくのみる空と きみのみる空は つながっているから～

「アメリカでも奮闘しています」

先日、こちらのニュースで、小学4年生の女の子が1年生の時から自分のいじめの体験をFacebookに投稿し、いじめに反対する気持ちを表現したとの記事を見ました。女の子が紙に自分の思いや、どのように学校でいじめられているかを書き、その紙をめくりながら視聴者に訴えるというものでした。とても可愛らしい、線の細い感じの白人の女の子でした。

娘や息子の学校でもいじめがないとは言えません。ターゲットが彼らになることもあれば、彼らの仲良しの友人になることもあります。英語が話せない、勉強ができない、すぐ泣く、汚いことをした、その他ターゲットになる理由は様々です。先日は子どもたちと仲の良い台湾人の男の子が何人かに意地悪をされたと言って、子どもたちが学校から帰ってくるなりその話をしました。休み時間に遊んでいるときに起こった出来事だったそうで、娘も息子も2人ともその場に立ち合っていたそうです。ことの発端は追いかけてこで、彼が鬼だったそうですが、何度も鬼になってしまうので、彼が鬼をやりたいと言ったら、暴言を吐かれ、その後突き倒されてその子が泣かされてしまったと言うのです。先生は遠くにいて気がつかないと言っていました。娘は友達にやめるように言ったと言っていて、また息子も「次回同じことがあったら先

生に言うから」と伝えたと言って、ブンブン起こっていました。それをしたのは、何人かのクラスメートの女の子だったとのことでした。

私も驚いてしまって、それがどこまで遊びの範疇内だったのか、いじめにあたるものだったのか、考えているだけでとても憤りを感じました。台湾人の男の子は体が小さく、また2年前に引っ越ししてきたばかりなので英語が流暢に話せません。

そんなときに目に入ってきたのは、先ほどの女の子のニュースでした。娘と息子と一緒にそのニュースについて少し考えていました。とても悲しい気持ちでそのニュースを見ていましたが、では、いじめをなくすにはどうしたらいいのかと考えることを考え出すと、いじめている子が反省していじめをやめるということはいじめは本当に無くなるのかという疑問にたどり着いてしまったのです。子どもたちにはいつも、いじめをする子どもたちは、寂しくて、愛が足りないから人をいじめるんだと説明しています。というのは、私自身が保育園生の時にいじめっ子だった時期があり、その時に、明らかに寂しさから意地悪な行為にたどり着いてしまった自分を知っているからです。寂しさや孤独感というのは、不思議なもので人間の中にある悪を増殖させていきます。愛に満ち、愛溢れる毎日を送っている時には不思議と悪が鎮圧されていく

のです。確かに「いじめをやめよう！」
「いじめはひどいことだ」と訴えること
でいじている本人にそのことに気づい
て欲しいという気持ちにはなります。で
すが、本当に悪いのは誰なのかと考える
ときに、やはりその問いはこの社会に返
ってくるのだ、大人たちに返ってくるの
だと感じるのです。

彼女のニュースを大人たちが取り上げ、
ただ「いじている子」への批判で終わ
ってしまっていては、何の解決にも繋が
らないと思うのです。そこで終わらせる
ことなく、自分への問い、社会への問い
として彼女の発言を受け止めていきたい
と心から感じたのでした。

(山本 知恵)



名護の七曲(68)

沖縄の文化9 泡盛と壺

沖縄は16世紀頃まで海外交易がたい
へん盛んでありました。交易相手として
は中国はもちろん、朝鮮や日本、また東
南アジア諸国にまで広く及んでいたよう
です。とはいえ沖縄は資源や産物に乏し
かったため、海外から買い入れた珍しい
品物を、海外に持って行って売ってその
差額で儲けるという商売の仕方が主流だ
ったみたいです。いずれにしても、港も
市場も広く開放されていたため、文化的
にもさぞ賑やかだったことでしょう。

【泡盛】賑やかな場所にはどうしてもお
酒が必要です。どうしてもってことでは
ないかもしれないけど、スムーズな取引
のためにはそういうのも必要だったので
はないかなぁと想像します▼沖縄で新開
発された醸造酒「泡盛」も海外から製造技
術が伝来したことによって誕生したもの
です。タイから伝わったとも中国から伝
わったとも言われておりますが、はっき
りとしたことは分からないみたいです。
ちなみに泡盛の製造にはタイ米が使われ
ます。タイ米じゃないと駄目なんだそう
です▼ところで泡盛にも様々な銘柄があ
りますが、私が住んでいる沖縄島北部地
方では、私が見ましたところ今帰仁酒造
の「美しき古里」(うるわしきふるさと)が
最も良く飲まれている印象があります。
「内地」ではほとんど目にすることのない
超マイナーな銘柄だと思いますが、この

辺りではやはり皆さん「古里」のようです。中部や南部、また八重山や宮古島地方ではまたそれぞれご当地の“定番”があるのでしょうかけれども、他の地域のことは私はよく知りません▼沖縄で「サケ」と言えば清酒ではなく泡盛のことを指す場合が多いです。「シマザケ」と呼ばれることもあります。さらに短縮して「シマ」と言うことも。公民館で区民総会や会議があった時、たいてい最後にテーブルにシマが上程されます。すると「羽柴さん久し振り、あんたは何ね、ビールねシマね？」と聞かれますので、「有り難うございます、ボクさんびん茶もらって飲んでますんでエへへ」って答えます。区長さんはいつ会っても「おお久し振り」って言って歓迎してくれるので嬉しいですね。歓迎される間はまだまだ余所の人なのかもしれないけど、皆さんとても良くしてくれるので、私も失礼の無いように出来るだけ最後までお付き合いするようにしています。みんなすごくいい人たち。

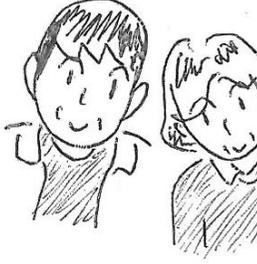
【甕】泡盛の貯蔵には今ではほとんどステンレス製のタンクが使われていると思います。が、かつてはもっぱら甕。小売用の入れ物も、今ではガラス瓶や紙パックが主流ではありますが、やっぱり上等なやつは甕に入って売られてるイメージがあります。お祝いとかそういう特別な時に開けるのでしょうかね。楽しみです。どうせなら10年くらい前から用意して、仕次ぎ（注ぎ足し）しながらしっかり寝かせて、ご馳走も用意して、それからみんなと一緒に乾杯したいところで

すね▼こどもが生まれた時の記念の三升甕が家の床の間に置いてあるという人も居ました。その子が成人した時に開けて飲むんだとか言ってましたが、多分もたないと思います。やれ誕生日だとかやれ入学式だとかで絶対飲むし。二十歳のその時まで三升全量が果たして古酒でいられるかどうか…。少なくとも最後の3年間は我慢やな▼さてその泡盛を入れておく甕ですが、名護市に古我知焼という窯元(復元?)があるみたいなのですが、古我地焼と言えは吉納、知花と並ぶ沖縄古窯の一つ。沖縄で古くから焼き物が盛んだったのは、もしかして泡盛を入れるため？ 当時はまだステンレスのタンクとかありませんでしたので、液体を貯蔵しておくものと言えはやっぱり甕ということになります。それも相当の数必要だったでしょうから、きっと窯元も大忙しかったことでしょう。ちょうど良い具合の甕があったら、古酒用にご家庭の一つあるといいかもですね。松島さんがたの工房に良いのいやろうか？

今回は泡盛と甕のお話だけで終わってしまいましたが、よく考えたら私お酒飲めないんだ。でもまあ飲める飲めないは別として、泡盛造りも沖縄の大事な文化の一つですので素通りするわけにはいきません。また何か面白いお話があったら機会を見てご報告いたしましょうね。

(羽柴 禎)

ある本から



例えはー私たちがは
精神障害者です。
精神病による症状や
入水も軽減するための
服用する薬の副作用や、



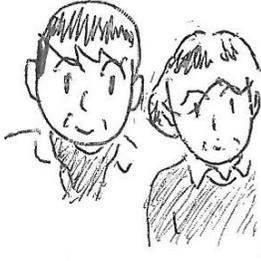
今回は構成を
変えてみました。
8コマです。



電車内や町なか
では、対人不安や視線恐怖
妄想幻聴等が激れます。
薬にはその外出も
フラフラになり、その後
二三日は、しんどいです。



『被差別マイノリティのいま』と
いう本があります。
ハンセン病 ・ 見出し目
自死(遺族) ・ 部落
・ LGBT ・ アイヌ
・ 外国人 ・ 水俣病
・ HIV 一の9項目に
分かれています。



でも、こんなことは
ほとんど知られていません。
多くの差別被害者が
当事者のかまみや泣き寝入
りによって「無かったこと」に
されていくのです。



『被差別マイノリティのいま』は
差別に苦しむ被差別当事者が
社会に「分かってもらいたい」と
自らの体験をもとめて
訴えるものです。

声上げれば、聞いてもらえないー
この本には、みんな事が詳しく書かれて
います。
↓
『被差別マイノリティのいま』
2017年12月
解放出版社刊。
おすすめ
F/8




でもね、
カミングアウト(公表)
するのは結構大変です。
恐怖も不安もあります。
覚悟も要ります。

～つとがわ・あれこれ～

4月23日から(26日までの予定で)、沖縄辺野古新米軍基地建設反対の座り込みに参加しています。23日も24日も、およそ600人が参加し、キャンプシユワブ米軍基地の工所用ゲート前に座り込んでいます。スクラムを組んで座り込んでいる人たちは、資材搬入のトラックが近づくと「規制開始」の合図で機動隊員によって「ごぼう抜き」されます。そして、米軍基地フェンスと警察車両の間の歩道に、前後を機動隊員によって固められ閉じ込められます。23日は、3時間余り、24日は1時間30分を超えていました。23日は、30度近い気温でしたから、こまめな水分補給も必要でした。閉じ込められている外側から、補給用の水などを差し入れて貰いますが、少なからず妨害されました。で、3時間余り閉じ込められていると、トイレに行きたくなったりするのですが、解放、出してもらえないのです。それでも抗議して「条件付き」で解放、出してもらえるようになったのが、「4人揃うこと」「その4人が戻ってきたら、次の4人を出す」でした。

100人前後の人が閉じ込められていて、これってかなり大変です。

資材搬入車両を米軍基地へ入れさせないために座り込んで「ごぼう抜き」されるのは覚悟しています。「規制」して「ごぼう抜き」する場合も、「警告」があっても、必ずその時の「時間」も明示されます。いきなりではないのは、警察と言えども、いきなり実行行使は出来ないからです。「ごぼう抜き」して米軍基地のフェンスと警察車両の間に閉じ込め、3時間、1時間半と出られなくしてしまうのは明らかに「拘束」です。「ごぼう抜き」の場合と同じことで、根拠を示さない「拘束」は不当です。更に不当なのは、トイレに行かせないのももちろん、それを「条件付き」の「許可制」にしてしまうことです。で、閉じ込めている若い機動隊員に、「あんたたちの職場では、トイレは許可制か?」「あんたたちが逮捕拘束した人の場合も、警察署内ではトイレは許可制、条件付きか?」と聞いてみたりするのです。

今回、呼びかけられているのは「ゲート前連続6日間/あなたの思いを/どうか辺野古へ/500人結集」で、3日目の25日も参加します。「ごぼう抜き」になり、「トイレは条件付き、許可制」で、数時間「拘束」されることとなります。

で、25日は強く強く要求します。根拠を示さない「拘束」は不当であること、たとえ「拘束中」であっても、「トイレの自由を!」「閉じ込めるなら、閉じ込められた場所でのトイレの自由を!」「閉じ込められた場所に、仮設トイレの設置を!」の要求です。たぶん、聞いてもらえないでしょうが、閉じ込めること

が、そもそも不当なのですが「拘束」しておいて、トイレの「条件付き、許可制」はまずいのです。ちなみに、若い機動隊員には「トイレとは、そもそも何か」について、詳しく、かつくどくどと話しかけてみました。「トイレというものはゆっくり座って新聞を読む場所」「泣きに行ってもいいし、逃げ場所であってもいい」「必ずしも、小便や大便だけの場所ではない」。

今、この国で、500人を超える人たちが、座り込んでスクラムを組んで、何かへの意思表示の為「連続6日間」機動隊員と向かい合うなどということは、どこにもありませんし、起こりもしません。沖縄では、それが起こっています。大規模の米軍基地が、豊かで貴重な生き物の海、大浦湾を埋め立て強行されています。座り込む人たちが「ごぼう抜き」にされることも、どこにもありませんし、起こりもしません。沖縄では起こっています。「ごぼう抜き」された人たちが、3時間余り、「トイレは条件付き、許可制」で根拠も示さずに「拘束」されるということも、どもにもありませんし、起こりもしません。沖縄では起こっています。

で、「トイレの自由」「仮設トイレの設置」を強く要求するのです。一方で、「拘束中」に歩道に座っていて、警察車両に向けた靴が触れただけなのに、「器物損壊だ」で、「こいつだ!」と、パチパチと写されたりしています。

(K)

この4月から仲間に加えさせてもらうことになりました。今年34歳になる双子をネタにして、「子育て奮闘記」を書いていたことを思い出します。そんな私も、もはや孫が7人。古来稀なる年齢となりました。よろしくお願ひいたします。

(S)



政治・宗教思想研究会／関西神学塾

《今後の講義予定》

5月11日(金) 手島 勲矢先生「トローラー解釈(15)」

5月18日(金) 勝村弘也先生「申命記史書を読む(56) サムエル記上39回目」

5月25日(金) 岩野祐介先生「内村鑑三(49)」